

統合失調症者の病気の意味づけと「折り合い」のつけ方 — 当事者のライフストーリーのインタビュー調査から —

人間福祉学科 生涯発達支援系 菊池芽衣

本研究は、受け入れがたいものを、完全に是認することはできないまでも受け入れようとする「折り合い」に注目し、統合失調症者の日々の生活や自己理解をインタビューを通して明らかにする調査研究である。

インタビュー調査の結果、障害を受け入れる過程には、障害を抱えた自己への「拒否」や「あきらめ」、障害を抱えた人生への「慣れ」、「折り合い」がみられ、それらは当事者にとってその時々に必要な在り様であるということが示唆された。これは、障害への納得や肯定的な意味づけを強調しがちな、従来の「障害受容」論では軽視されやすい点であったといえる。また、「折り合い」には「折り合いをつけられる部分」と「折り合いをつけられない部分」があり、ジレンマを抱えながら、揺らぎつつも今の生活に適応していることも当事者の障害との折り合いの姿であることが推察された。結論として本研究では、支援者が当事者の障害を抱えて生きようとするその人なりの受け止め方を尊重していかなければならないことの重要性を提起している。